

***Gymnocalycium eurypleurum* Ritter**

記述

私が見つけたすべての個体群は、かなり均一性がある。植物は大抵、頻繁に起こる極度に長い乾燥した期間にもかかわらず、新鮮で緑色を呈している。種の分布は今まで、知られているより大きい。私の現状の知識に従えば、それは、今のところ北パラグアイに限られ、およそ 124 平方キロメートルに達する。 *G. eurypleurum* は、現代サボテンの文献において、独特な種として考えられる。私の考えでは、この種は、私達が *G. anisitsii/damsii* の複合体の一部として、今日見做している植物と最も密接に関連している。

植物



記録：植物は大抵、新鮮な緑色の外観
VoS251 : south-west of Cerro Leon ridge, Alto Paraguay, Paraguay 170m



記録：刺は 60mm までの長さになる。
VoS255



記録：人は既に 9 月中旬、植物の最初の種容器を見つけることができる
VoS255 : north of Dest. Gral P. Colman, Alto Paraguay, Paraguay 191m

種は、通常は単幹、成熟した個体は、わずかに短い円柱状、しばしば、みずみずしい緑色、幾分頂点が窪む、直径は 200mm まで。非常に平坦で広い 16 本までの稜、刺座は、わずかに突起し、しばしば、小さく水平にへこみ、綿毛で覆われる。刺は大抵、まっすぐで、薄茶色で、胴体から突出している。縁刺は、長さが 60 mm まで、中刺がある場合は同じ長さである。



記録：生息地 VoS 263 の *G. eurypleurum*
VoS 263 : south of El Palmar Alto Paraguay,
Paraguay 219m



記録：ある場所では、多数の植物を見つけることができる。VoS 263



記録：白い花をつけた *G. eurypleurum* VoS 263

種子



記録：種子は、ほぼ結節状、黄色っぽい茶色



記録：種子は長くて 狭いハイラム領域を持つ

果実は丸く、直径約 20 mm、鱗片と同色の赤、果実は水分が多く、カルミン色。 種子は、ほぼ結節状、黄色っぽい茶色、非常に小さい瘤、約 0,7mm、白いハイラムは、長くて薄い。

花



記録：植物は6月から7月に開花する。
VOS17 : north of Americo Pico, Boqueron,
Paraguay 195m



記録：個々の花は長さ最大 50mm に達します。
VOS17



記録：胚珠はいつも小さい
VoS14 : east of Aga Dulce, Alto Paraguay,
Paraguay 200m

花は大抵、頭頂部より育つ。釣鐘形状、長さ直径は、約 30mm。内花弁は白から淡いピンク色、外花弁は暗い紫色の中筋を持ち、薄紫色。 花糸および花柱は白い。

歴史

1963年9月18日、Friedrich Ritter氏はバスでAsuncionからFiladelfiaに行き、その後、サボテンのハンターがこれまで探索しなかった区域Cerroレオンに旅行した。彼は、昼下がりにCerro Leon近くに着いた。そこは植物が茂っているために、翌朝に山を訪問することにした。Ritter氏は山地の近くの平らな地域を探索するのに時間を費やした。そこでは、彼がG.eurypleurumを発見した。Ritter氏は、その時、チリの住居で、彼のすべての調査結果の検疫を受けました。そして、標本の1つは生き残ったというわけではありませので、集められた植物のどれも実際には、ヨーロッパに到達しなかった。ついに、種だけがドイツのRitter氏の姉H. Winter女史に到着した。Olomoucから、ギムノカリキウムコレクターのFerdinand Plesnik氏が、フーイルド番号FR 1178の200粒を発注した。Plesnik氏はサボテンの他の友人と、播種し、発芽した実生植物のいくつかを共有した。これと最初の実生植物が4年後に咲き始め、種をもたらししたという事実が、私達のコレクションで、この種を維持することに貢献した。F.Plesnik氏が1972年、雑誌Kaktusyに最初の記述を出版したことは驚くようなことではない。Plesnik氏が公式に認められた植物標本館(ハーバリウム)にサンプル

ルを置くことを無視したので、この新種は、無効とされた(Metzing 氏らによる 1995 年)。Ritter 氏は 1979 年に *Gymnocalycium eurypleurum* の彼自身の診断を出版した。Ritter 氏の記述は、公式とする植物標本館(ハーバリウム) 'U' (Utrecht)に置かれたサンプルと一緒に伴われる(Metzing 氏らによる 1995 年)。

生息地



記録：典型的なチャコ植物
VoS263 : south of El Palmar, Alto Paraguay,
Paraguay 219m

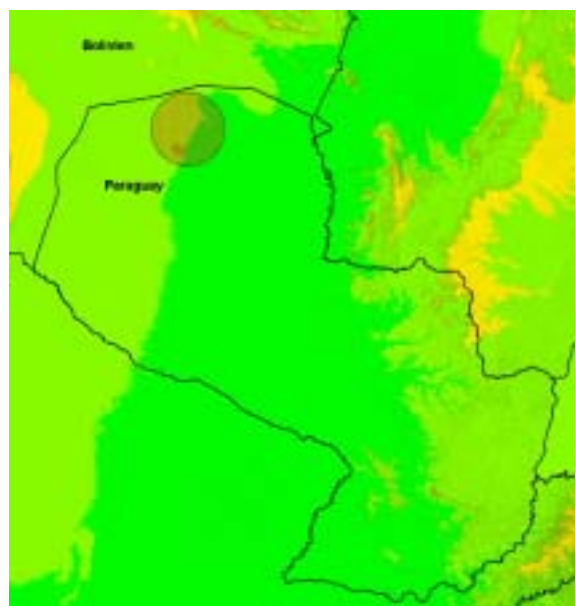


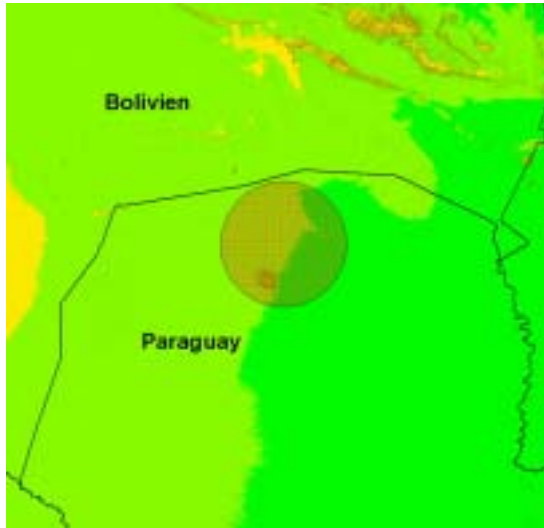
記録： *G. mihanovichii* は時々、 *G. eurypleurum*
VoS263 と随伴して見ることが出来る。



記録： *G. eurypleurum* と一緒に生息する
Frailea spec.
VoS 263 : south of El Palmar, Alto Paraguay,
Paraguay 219m

記録：私が集めたデータによると、自然の分布は
Mario Wick 博士提供の地図で、およそ
124 平方キロメートルです。(右地図)

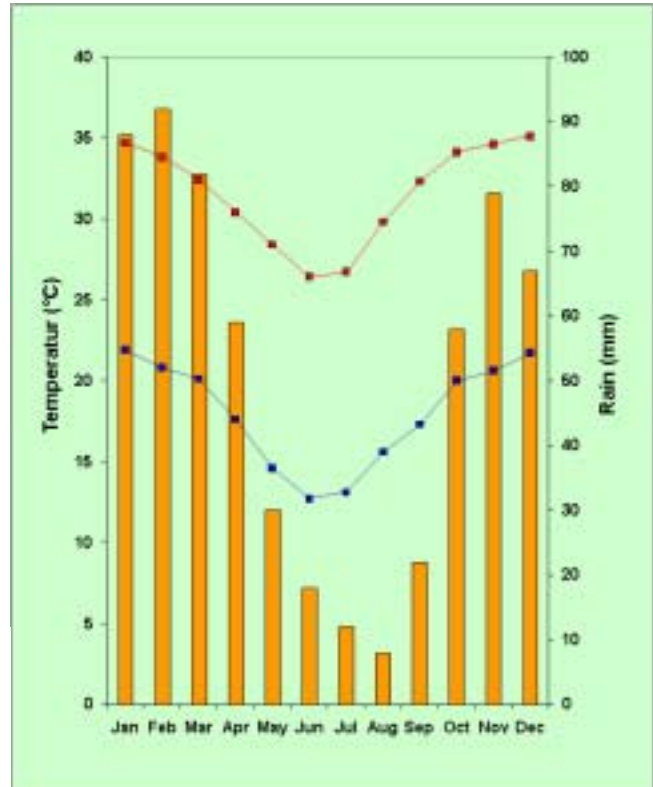




記録：私は Mario Wick 博士提供の領域地図で、この種を特定の場所に制限できました。

記録：天気における変化は、しばしば温度の激的な低下を含んでいます。そして、風は北部から南へと変わります。それは珍しくなく、年間雨量の4分の1は、少数の時間の間に起こる。

(Mario Wick 博士提供のグラフ)(右)



Gymnocalycium eurypleurum は、多くの木立が、冬(6月-9月)の間に葉を落とす乾燥した森林で育つ。その植物の大半は 6 メートルまで高い、ほとんど突き抜けられない藪から成っている。すべてが、何らかの方法で刺すか、または突き刺されます。地面で私達は *opuntias* および種々の *bromelias* を見つける。土は黄土および黄土の粘土によって覆われる粘土質の沈泥から成っている。その厳密な構成は生息地によって変わる。腐植土の養成はまれにしか起こらない。土は栄養素で豊富である、pH 値は 6.8 と 7.2 の間にある。乾燥した期間の間に地面は“岩(rock-hard)” “のようになる。年次降雨量は 500 から 800mm。冬は、温度は 0° C 程度まで下がる、しかし、夏は、50° C まで上昇する。*G. eurypleurum* の自然の生息範囲は、これまで知られているよりなり大きい。---私は殆どボリビア国境近くまでのパラグアイで、この種を見つけていることが出来た。

栽培



G. eurypleurum VoS 17 : to the north of Americo Pico, Boqueron, Paraguay 195m



G. eurypleurum VoS 20 : south of Fn. Palmar de las Islas, Alto Paraguay, Paraguay 210m

種は、平均最低温度 19° C および平均年間雨量 430mm の地域から来る。夜霜は全く例外である。冬の間、完全に乾いた基質の状態、約 10°C の温度は、私により試みられ、試験されています。より低い温度は、短い期間にわたって許容されますが、しばしば根の損失を起す。生育期では、植物は沢山の水をj得ることができ、半日陰があることが好ましい。標本が、一度よく生長していると、日当たりがよい位置は痛みません。そして、植物は非常に長い刺をj発達します。よく発芽する種子から栽培するのは、問題ではありません。

※ Volker Schädlich 氏のホームページ "Die Gattung *Gymnocalycium*" <http://www.gymnos.de/> 中の *Gymnos from A to Z* からの翻訳で、Volker Schädlich 氏の好意により、翻訳の掲載許可を頂いています。無断転載を禁止します。